

運動疫学研究 特集企画

「不活動に陥りやすい集団の運動疫学」の趣旨と論文投稿の呼びかけ

担当編集委員

岡田真平（公益財団法人身体教育医学研究所）

小野 玲（神戸大学大学院保健学研究科）

甲斐裕子（公益財団法人明治安田厚生事業団体力医学研究所）

■趣旨

身体不活動の世界的な蔓延を受けて、WHO（世界保健機関）の「健康のための身体活動に関する国際勧告」（2010）や、我が国の「健康づくりのための身体活動基準 2013」をはじめとして、各所で身体活動の促進が前面に掲げられるようになった。こうしたガイドラインが、身体活動促進の全体戦略として一定の役割を果たす一方で、対象者特性に関しては、年代（概ね子ども、成人、高齢者の3群）を考慮するにとどまり、特定の集団に対する身体活動の促進に踏み込むには至っていない。

しかし、実際の研究や取り組みにおいては、対象者特性をふまえた身体活動促進の介入や普及に関する個別戦略が必要であり、身体不活動に陥りやすい集団を特定し、その特性に応じた対応が求められることが多いと考えられる。身体不活動に陥りやすい例としては、疾患・障害・経済状況といった個人的要因や、人口低密度地域・身体活動を要さない職場環境といった社会的要因まで、様々な背景要因が想定されるが、こうしたそれぞれの要因を共通項とする集団が一定規模で存在するため、今後、各集団の特性を考慮した身体活動の促進がより重要となるであろう。

そこで本特集では、こうした視点に立った質の高いエビデンスを蓄積すべく、「不活動に陥りやすい集団の運動疫学」というテーマを設定し、対象者特性をふまえた身体活動促進に関する研究や取り組みの参考になるような論文を募集する。

■募集論文の要件（イメージ？）

- ✓ 不活動に陥りやすい集団を特定するような論文
- ✓ 不活動に陥りやすい集団の特性（不活動になる要因）等を扱った論文
- ✓ 不活動に陥りやすい集団の健康問題と身体活動との関係を扱った論文
- ✓ 不活動に陥りやすい集団に対する身体活動促進について扱った論文
- ✓ 研究デザイン（記述、横断、コホート、介入等）は問わない

■募集論文の種類

- ✓ 原則として、一次データを含む原著論文とする。
- ✓ ただし、当該トピックの学術動向の総括と、それを俯瞰した洞察や考察、展望を含む総説論文（叙述的、系統的）の投稿は妨げない。
- ✓ カバーページに“本原稿は特集企画「不活動に陥りやすい集団の運動疫学」の一環で投稿している”旨を記載すること。

■査読の有無

- ✓ 通常の査読付き論文と同様に査読に付すため、掲載を保証するものではない。
- ✓ 過去2年間の実績では採択率は9割程度である。

■募集時期

- ✓ 2018年12月1日～2019年12月31日

■論文掲載時期

- ✓ 掲載決定後、他の原稿の採択状況を考慮しつつ可及的速やかに出版される。
- ✓ 本特集にかかる論文は遅くとも2020年3月発行の本誌第22巻1号までに掲載される。

■問い合わせ・投稿

- ✓ 日本運動疫学会誌「運動疫学研究」編集委員会 担当編集委員（岡田・小野・甲斐）
E-mail: jaee.journal@gmail.com
- ✓ 原稿が特集の趣旨に合致するか否かについて、遠慮なくお問い合わせください。
- ✓ 投稿に際して、著者のうち日本運動疫学会の会員を一人以上含む必要があります。詳細は投稿規定 (<http://jaee.umin.jp/doc/kitei201608.pdf>) をご確認ください。

（補足）

■本誌「運動疫学研究」に論文を掲載するメリット

- ✓ 迅速かつ丁寧で建設的な査読
投稿から1st decisionまでの平均日数（過去1年間）は14.5日（範囲：8～23日）。
2018年4月1日現在（査読付き論文に限る）
- ✓ ゴールドオープンアクセス（出版時点からの完全オープンアクセス）
- ✓ 出版費用（投稿料や掲載料）は無料
- ✓ 日本運動疫学会は日本学術会議協力学術研究団体に指定されており、その会誌「運動疫学研究」に掲載される論文は、多くの大学院で学位審査等の要件として認められる。
- ✓ 本誌「運動疫学研究」は2019年3月にJ-STAGEへの登載が決定しており、掲載論文のアクセス機会の拡大が期待できる。
- ✓ J-STAGE登載に伴い、国際的に広く普及している恒久識別子 digital object identifier (DOI) が、掲載論文に自動的に付与される。そのため、掲載論文の追跡可能性も高い。